



「志」大野中だより

令和7年1月16日(木)

文責:校長 瀬口 勇治

新年あけましておめでとうございます。

令和7年の始まりとともに、令和6年度の3学期が始まりました。始業式は、全校生徒でそろって体育館で実施しました。冬休み期間中に大きな事件・事故が起きることなく3学期を迎えることができたことに本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

始業式「校長の話」の一部を紹介します。

正月からTVで放送される箱根駅伝をずっと見ていました。結果は、青山学院大学が見事に総合優勝を飾りました。選手の中に、篠栗北中学校の卒業生がいたので、4年間ずっと応援をしていました。中学生の時から、「青山学院大学の選手として、箱根駅伝で活躍する」と言っていた夢が現実となったことに本当に感動しました。

さて、青山学院大学駅伝競技部が強いチームであることは、様々な要因があると考えられますが、原監督が雑誌等のインタビューで、青山学院大学駅伝競技部の学生のことについて語っていた内容を紹介します。

『選手について、育成だけでなく、スカウトの段階から人間性を重視すべきだと思い知らされたのは、監督就任3年目のことでした。1年目、2年目と思うような成績を残せなかった私は、契約最終年の3年目、人間性を度外視してタイムが良いだけの選手をスカウトすることに決めました。そのとき、獲得するつもりだった選手の指導者からこう警告されたのです。「原君、あんな選手をとってはいけない。部がダメになるぞ」

そこまで言われてかえって意地になってしまった私は、その選手の能力をしっかりと開花させ、箱根駅伝に出てやろうと決めました。しかし、その決断は最悪の結果を生んでしまったのです

その選手が寮に入るや否や、チーム内で抜群のタイムを出す反面、乱れた生活でチーム内をかき回したのです。しかし、実力が抜きんでいるだけに、ほかの部員は遠巻きに彼を傍観するだけです。そんなチームが結果を残せるわけがなく、前年よりも成績は落ち込み、陸上部は空中分解の危機に陥ったのです。そして、しばらくしてその部員は辞めてしまいました。

ただ、この3年目があったからこそ、「表現力豊かで、勉強もしっかり取り組める心根のいい選手」という青学陸上競技部のスカウトの基準を確立できたのも事実です。高校生の頃は少々タイムが悪くても、自分でちゃんと考えてコツコツと練習に取り組み、自分の言葉を大切にすることが、大学4年間で圧倒的に伸びるということを知るきっかけになりました。

他の人と協調しながら行動できる「心根のいいヤツ」をとるほうが、短期的な伸びは小さくても、長い目で見ると組織全体の力を伸ばすことにつながるのです。』

様々な場面で周りの人と協力をしながら、自分の考えを持ち、コツコツと取り組むことができる。大野中学校の生徒の皆さんには、こんな「心根のいい人」に育ってほしいと願っています。

新年を迎え、大野中学校のさらなる成長に期待しています。

1年生、2年生キャリア教育の取組

2年生は、1月15日(水)に、外部から講師をお招きしてマナー講座を受講しました。社会人としてのマナーや心構えについて学ぶことができたことと思います。1月22日(水)、23日(木)に実施予定の職場体験学習で、今回の学びを活かして充実した体験学習ができるものと期待をしています。

また、1年生は、1月23日(木)に職業講話の授業を行います。様々な業種の方々から話を聞くことで、今まで知らなかった職業について興味・関心をもつとともに、将来の目標をもつことに繋がっていくことを期待しています。

今後の主な行事予定

日程	学校行事	日程	学校行事
1月16日、17日	パラマ入試	1月24日(金)	私立高校 専願入試
1月22日、23日	2年生職場体験学習		1年生参観・懇談、2年生進路学習会
1月23日(木)	1年生職業講話	1月30日、31日	公立高校 推薦・特色化選抜入試